

笑顔広がる！まつやま応援寄附金の活用について(ご報告)

- ◎ 令和4年度にお寄せいただいた寄附の実績 ※新型コロナウイルス緊急支援分を含む
件数 63,309件 金額 949,412,700円



◎ 寄附金の使い道について

各項目ごとに活用させていただいた事業の概要を記載していますので、ご覧ください。

1. 安心・安全な子育て環境の充実と整備のために 件数 30,196件 充当額 407,017,200円

○ 不妊治療・不育症検査助成事業

子どもを持ちたいと望まれるご夫婦の経済的負担の軽減を図るため、不妊検査や不妊治療の費用に対して、助成を行いました。また、不妊・不育に関する様々な悩みや不安に寄り添うため、専門相談窓口を設置し、助産師や保健師が相談に応じました。令和4年度は、不妊検査・不妊治療として延べ529件の助成を実施しました。

○ 妊娠・出産支援事業

・すくすく・サポート(子育て世代包括支援センター)に保健師等が常駐し、母子健康手帳等の諸手続きや育児・栄養相談など妊娠期から子育て期にわたるサポートをしています。令和4年度は12,495件のご利用がありました。

・生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を訪問し、子育て情報の提供や育児の不安や悩みへの助言等を行っています。令和4年度は2,850件の訪問を実施しました。

・出産後のお母さんと赤ちゃんのケアや育児支援を行う産後ケア事業を実施しています。令和4年度は延べ281人のご利用がありました。

○ 子ども医療助成事業

・子育て家庭の経済的負担を軽減し、子どもの病気の早期発見・治療を支援することで、子育て環境の充実を図ります。現在、中学3年生までの入院・通院費を助成し、約60,000人の子どもに受給資格証を交付しています。



すくすく・サポート

2. 健全で豊かな心を育む教育のために 件数 3,130件 充当額 46,741,500円

○ 学校・家庭・地域連携協力推進事業(放課後子ども教育運営事業)

・地域の方々の協力を得て、市内30箇所放課後や週末などに子どもの安全・安心な活動拠点(居場所)を設けて、子どもたちが地域の方々とともに勉強やスポーツ・文化活動、交流活動などの取り組みを実施しました。令和4年度は1,944人の子どもの参加登録がありました。

○ 未来の「ふるさと松山」創造事業(次世代に向けた特色ある学校づくり)

・SDGsの達成につながる探求的な学習や体験活動、教科横断的な学習を通して、子供たちが多様な他者と協働しながら様々な社会の変化に対応し、ふるさと松山で持続可能なまちづくりを担う社会の創り手となることを目指し、補助金の支出や出前講座の紹介等、地域の特色を生かした学校づくりを推進しました。令和4年度は82校がSDGsの取り組みを実施しました。

○ まつやま小中学生文化体験学習事業

・子どもの豊かな感受性を育むとともに、将来への可能性を引き出すことを目指し、「坂の上の雲ミュージアム」または「子規記念博物館」の観覧に加え、文化施設での文化芸術鑑賞に必要な交通費と観劇料等を市が負担しています。令和4年度は松山市立小中学校16校で児童生徒1,766人が優れた文化芸術に触れることができました。



地域の祭り「川祭り」

3. 魅力ある農業・観光の振興のために 件数 8,147件 充当額 133,627,000円

○ 流通販売促進事業

・儲かる農水産業を目指し、生産者、販売者、消費者が誇れる「まつやま農林水産物ブランド」に、「松山アボカド」(R4.10.18)、「興居島レモン」(R5.1.13)を新たに認定しました。令和4年度は新しく22店舗が「まつやま農林水産物ブランド」産品等の取扱いを始めました。

○ 未来型果樹産地強化支援事業

・平成30年7月豪雨災害から復興した園地での農業継続を支援しました。
・「紅まどんな」、「せとか」等の高収益が期待できる品種の生産設備導入などを支援しました。令和4年度は、栽培ハウス70.7a、防風鳥ネット212a、灌水設備294.2aの設備導入を実施しました。

○ まつやま農業未来投資事業

・花木の産地拡大のため、市内だけでなく松山圏域への苗木分譲や新規有望品目の栽培研究を進め、令和4年度はユーカリ15,000本、アボカド1,458本の苗木分譲を行いました。
・アボカドのハウス栽培の技術研究や病害の研究を行い、産地化を支援しました。
・新規就農者の園地で、職員が栽培管理作業の手本を見せながら丁寧に指導しました。また、環境に配慮した栽培研修を既存の研修メニューに追加して実施しました。

○ 有害鳥獣捕獲緊急対策事業

・猟友会に有害鳥獣捕獲許可に基づく有害鳥獣の捕獲に対して報償金を支払っており、令和4年度は計4,500頭以上の捕獲となりました。
・有害鳥獣の侵入を防ぐ施設(電気柵、金網等)設置に補助を行いました。令和4年度は被害防止施設設置補助の申請が127件あり、総延長31,956mの設置となりました。
・被害防止の環境づくりを進めるために、集落住民のサルの追い払い活動を支援しました。

○ 道後温泉活性化事業

・令和4年度は、道後温泉本館保存修理後期間中の活性化策「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」の一環として、4年ぶりとなる芸術祭「道後オンセナート 2022」を開催しました。自由に鑑賞できる常設のアート作品を展示したほか、随時イベントを実施し、いつ来ても楽しめる、何度も訪れたい芸術祭に取り組みました。
また、産官学が参画する持続可能な道後温泉協議会では、上人坂を中心に各種イベントを展開しました。これらをつなげ、令和4年度は687,982名の方が道後地区に宿泊客としていらっしゃいました。
これらの取り組みを発展・継承し、百年先まで輝き続ける「新たな道後のまち」を目指します。



まつやま農林水産物ブランド「アボカド」



アボカドのハウス栽培



道後・上人坂の交流拠点「ひみつジャナイ基地」



道後温泉本館「熱景/NETU-KEI」(大竹伸朗)の展示

4. 文化やスポーツで魅力あふれるまちにするために 件数 1,928件 充当額 33,326,000円

○ HAIKU(国際俳句)ブランディング事業

- ・「松山・俳句=HAIKU」の知名度を上げ、国内外の観光客のHAIKUに対する共感や価値を高めています。
- ・俳句の教養のあるまち歩きガイドによる旅行商品を開発するほか、個人観光客や修学旅行生に向けて、松山ならではの体験を提供することで松山の魅力を発信しています。令和4年度は3,546名にまち歩きガイドをご利用いただきました。
- ・松山国際写真俳句コンテストを実施し、国内外の観光交流人口の増加を目指しています。

○ スポーツシティまつやま推進事業

- ・スポーツを通じた交流人口の拡大や地域経済活性化を図るため、地域に密着したプロスポーツ(愛媛FC、愛媛マングリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングス)の支援事業を実施したほか、プロ野球公式戦や地方球場では初めて3回目のプロ野球オールスターゲームを開催しました。
- これらにより、令和4年度は地元プロスポーツに8万5千人ご来場いただくなど、市民がスポーツと触れ合う機会を創出するとともに、今後の交流人口拡大や地域経済の活性化につなげることができました。

○ 社会体育振興事業

- ・まつやまスポーツ笑顔大賞・・・令和4年度は、スポーツ推進のために、四国大会以上の大会で優秀な成績を収めた選手・指導者216名を表彰しました。
- ・体育大会出場激励金・・・松山市を代表して全国大会に出場する小中学生を激励するため、452名の方に激励金を交付しました。
- ・「全国高等学校総合体育大会」の開催を支援しました。



全国高等学校総合体育大会の様子

5. 誰もが健康で生き生きと暮らす地域の実現のために 件数 2,756件 充当額 43,164,000円

○ 生きがいデイサービス事業

- ・おおよね65歳以上の高齢者の方で、介護保険法に規定する通所介護を利用することができない方に対し、送迎、入浴、食事、創作活動や趣味活動等のサービスを提供することによって、高齢者の自立と生活の質の確保及びその家族の身体的、精神的な負担の軽減を図っています。令和4年度は延べ16,167人の方にご利用いただきました。

○ 障がい者工賃レベルアップ支援事業

- ・障がいのある方に働く機会を提供し、社会参加を促進することなどを目的に、古着や廃食用油を回収する事業に対して補助を行っています。これらの取組により、障がいのある方の働く機会の創出に加えて、古着等の回収による再資源化を促進することで、ごみの減量につながっています。令和4年度は古着を約385トン、また廃用食料油を約13,000リットル回収しました。



古着回収の様子

6. 豊かな自然・環境を次世代に引き継ぐために 件数 5,424件 充当額 78,346,000円

○ 松山スマートシティ推進事業

- ・ゼロカーボンシティ松山の実現に向け、太陽光発電システムや蓄電池のほか、電気自動車やV2H等への補助を行い、より一層の再生可能エネルギーの普及を推進しました。
- また、公用車に2台の電気自動車を導入し、防災力強化につなげました。

○ 市内企業脱炭素促進事業

- ・金融機関が企業向けに行うESG融資のうち、サステナビリティ・リンク・ローンの契約にあたって必要となる外部評価機関へ支払う手数料の一部を補助することで、環境配慮型の脱炭素経営への参入を促しました。
- また、脱炭素経営に取り組む事業者の先進事例を周知啓発することで、脱炭素経営の普及拡大に努めました。

7. 災害に強い安心・安全なまちをつくるために 件数 2,033件 充当額 31,327,000円

○ 防災ひとづくり地域創生事業

・大学教育課程を通じて防災士の資格を取得した大学生で構成するNPO団体「防災リーダークラブ」に防災啓発等の事業を委託することで、防災の知識と実践力を備えた防災リーダーを育成しながら地域防災力の向上を進めています。令和4年度は、愛媛大学と連携した集中講義を開講し、150名の大学生防災士の育成につながりました。



大学での実技講習

○ 対策本部運営事業

・災害警戒本部・災害対策本部の設置及び運営を円滑に実施し、被害情報の共有や被害対応の迅速化並びに気象情報などの収集・伝達を行い、市民の生命、身体及び財産を保護し、被災者等の市民生活の早期安定を図っています。令和4年度は、災害警戒本部を4回設置することとなりました。

○ 避難対策推進事業

・最新のハザード情報を盛り込んだ総合防災マップや防災行動計画を記入するマイ・タイムラインシートの作成、避難所標識の設置などにより、自宅周辺の災害リスクや避難経路を事前に把握することで、平時からの災害への意識向上につなげ、災害時の「逃げ遅れゼロ」に取り組んでいます。令和4年度は、総合防災マップを22,500部、マイ・タイムラインシートを20,000部増刷しました。



8. 大好きなまつやまのために 件数 5,755件 充当額 96,147,000円

○ 待機児童対策・保育の質向上事業

・児童受入れの増加・・・待機児童の解消を目的に、待機児童の多くを占める1,2歳児について、さまざまな基準を満たした上で、定員を超えて受け入れた場合に施設に助成を行っています。令和4年度は定員を超えた児童250人を受け入れました。

・入園予約制・・・安心して育休取得していただくことを目的に、年度途中に育休から復帰予定の方を対象に入園予約制度を導入し、実績のあった施設に助成を行っています。令和4年度は児童173人の入園予約が決定しました。

○ 三津浜地区活性化推進事業

・空き家、古民家の活用・・・物件所有者と賃借希望者の橋渡しをする「町家バンク」や、空き店舗を改装し安価な賃料で賃借可能なチャレンジショップ、1棟の建物に複数店舗が出店するシェアショップを運営し、新規出店・移住の促進による新たなにぎわい創りを行っています。令和4年度の新規出店は7件となりました。

・食文化の活用・・・地元で愛されてきたお好み焼きを独自のご当地グルメ「三津浜焼き」としてブランド化するとともに、中四国ご当地こなもんサミットを開催し、認知度の向上を図っています。令和4年度は、1万人の方にサミットにご来場いただきました。

・地域資源の情報発信・・・ジャンル別に制作した動画をYouTube上で公開し、その魅力を全国に向けて発信しています。現在までの動画再生数は約60万回となりました。



町家バンクを活用した飲食店



中四国ご当地こなもんサミット

9. ふるさと松山ささえあいファンド ～新型コロナウイルス緊急支援～

件数 1,248件 充当額 25,368,000円

○感染症対策事業（新型コロナウイルス感染症対策）

新型コロナウイルス感染症に対し、感染拡大防止と陽性者への必要な療養支援に係る各種取組を行いました。

- ・感染予防等の啓発や陽性者等への必要な情報を発信しました。
- ・患者や関係者への疫学調査を実施しました。
- ・濃厚接触者へのPCR検査の実施、医療機関が検査を依頼できるよう地域外来・検査センターを運営委託しました。
- ・自宅療養者への健康観察や受診調整、パルスオキシメーターの貸し出しや配食サービスの提供など、医師会等関係団体と連携し、自宅療養者のフォローアップに取り組みました。



対策チームによる疫学調査

○介護事業所サービス提供体制確保事業

新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び重症化を予防するため、高齢者福祉施設等が職員や入所施設の新規入所者を対象に行う自主検査に要する費用を補助することにより、施設等の負担を軽減し、安全なサービス提供を確保しています。

令和4年度は、8,112件、18,205千円の補助を行いました。

○ウィズコロナ雇用促進事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用情勢が悪化している中、高齢者や子育て中の女性など多様な人材が活用できる環境を整えるとともに、市内中小企業のウィズコロナ時代に必要な変化に対応した支援を行っています。

令和4年度は松山市採用情報ホームページ導入支援補助金など、計82件、25,650千円の補助を行いました。

10. SDGs未来都市松山 こども夢ファンド 件数 2,692件 充当額 54,349,000円

○SDGs推進事業

・産・学・民・官・金が一体となって課題解決に取り組むプラットフォーム「松山市SDGs推進協議会」の活動支援を行うなど、SDGsの普及・啓発に取り組んでいます。

令和4年度からは、地域にSDGsの輪を広げるため、松山市SDGs推進コンダクターの養成を行い、市内の小学校で子どもたちと活動を行いました。



松山市SDGs推進コンダクター認定式

○愛ランド里島構想推進事業

・里島を体感できる体験メニューを実施している「まつやま里島ツーリズム連絡協議会」の活動など、島ならではのツーリズムを推進するための支援を行いました。令和4年度は51件の体験メニュー及びイベントを実施し、参加者は8,748人となりました。

・島しょ部で出会いイベントを実施、島しょ部男性の出会いのきっかけを創出し、7件のカップルが成立しました。

・里島定住促進施設や空き家バンクの運営などを行い、定住の促進に取り組んでいます。令和4年度は空き家バンクに22件の新規空き家物件を掲載するなどし、3世帯が定住となりました。

・島民の102名を対象に通勤・通学の定期運賃等の一部を補助し、海上交通の利便性の確保、負担軽減を行いました。



お試し移住施設「ハイムインゼルごごしま」

○ 瀬戸内・松山観光ビジネス事業

・観光戦略である「瀬戸内・松山構想」を軸に、松山市と海上ルートでつながる広島地域の自治体・船舶・鉄道事業者で構成する「瀬戸内・松山ツーリズム推進会議」が主体となり、瀬戸内海の魅力を最大限に引き出しながら、瀬戸内を周遊する新しいツーリズムを創造するとともに、旅行市場への定着に向けたプロモーションを展開しています。

令和4年度は、22件の旅行商品造成助成金交付申請を受け付け、旅行商品の販売実績は6,056件となりました。

○ ことばのちからイベント事業

・正岡子規や夏目漱石と縁の深い松山ならではの豊かな文学的土壌を生かし、「ことばを大切にするまち松山」を広く発信するため、「俳句甲子園」や「俳都 松山PR」、「街はことばのミュージアム」など本市独自の「ことば」をキーワードとした事業を実施しています。松山ならではの「ことば」を生かしたまちづくりを国内外へ効果的に発信しています。

令和4年度は、30都道府県から「俳句甲子園」へのエントリーがありました。



第25回俳句甲子園